20200802

花開く仲町-歓楽街再考-

1. はじめに

2020年, Covid-19という感染症に流行によって世界は大きな混乱の中にある. 特に「夜の街」におけるクラスター発生が問題視され, Covid-19と共存していく期間(withコロナ)において, 歓楽街は形質変化を迫られている. 一方でオンラインの発達や人々のライフスタイルの変化は, この外出自粛期間で大幅に加速し, ワクチン開発に伴うCovid-19の収束後(postコロナ)にも残り続ける. 現在は, 歓楽街が今まで抱えていた夜の街や各地区の課題を解決する重要な契機とも言える.

今回は歓楽街の一つとして**「仲町界隈」**を取り上げる. 図１はGoogleMapで「クラブ」と検索した際の結果を示しているが, 対象地区は「夜の店」が多く集まっており, 上野湯島エリアの中で異色の地区である. この地区のwithコロナ, postコロナにおける対策を提言することを目的とし, その分析によって歓楽街が今後どのような役割を担っていくかを論じる.

図1 対象地区とクラブのプロット図

2. 現状分析

2-1. 歓楽街の歴史

日本における歓楽街の起源の一つは江戸時代の**花街**である. 花街は, 宴会が開催される茶屋, 料理を提供する料理屋, 芸者を派遣する待屋の3種類の施設で構成されることから三業地とも呼ばれ [1], 1930年には全国で90箇所以上存在した. 1900年の娼妓取締規則による遊郭の衰退や, 特定の芸者と関係を結ぶには花街に通って信頼を得た上で待合茶屋という別の場所に移動して行為が行われたことから, 花街は現在の歓楽街とは異なり, **富裕層の娯楽**であり, 性風俗としての機能は小さかったと考えられる.

その後戦争期間に入ると, 酒の配給がなくなり物資が配給制になることで, 花街は閑散とした状態となった. 戦後には1958年売春防止法によって芸者の供給が止まり花街における茶屋待屋は激減した. 一方でキャバレーやクラブといった西欧の文化が流入し, **花街はネオン街へと変化していった**. これは男性の遊びが安価になったことの裏返しでもあり, 歓楽街は**客層を大きく広げ**ていった. 60-70年代には学生運動やアーケードゲームが流行し, 歓楽街は若年層の溜まり場にもなり, カラオケの発祥である「うたごえ喫茶」ができるなど, **文化の発信地として機能していた** [2].

1980年代には高級クラブ店や外国人観光客の増加に伴い, **接待・観光機能**を強めていく. しかし, 外国人店舗オーナーの流入や性的サービス施設の混在により治安が悪化し, **周辺地域から迷惑地帯として認識されることが増加してきた.** また2001年歌舞伎町ビル火災に代表される, 消防法に違反した建物におけるビル火災や, 客引きや**ぼったくり**によるトラブルが発生しており, 条例による対応も追いついていない. 若者がオンライン上で不特定多数とのコミュニケーションを取るようになり, 歓楽街の客層は相対的に高齢化し, 文化の発信地としての機能もネット上に移行した.

このように現在の歓楽街は, 娯楽施設としての機能を多様化させる一方で, **地域からの分断や違法行為によるイメージ低下**を共通の課題として抱えている.

2-2. 地区分析

2-2-1. 地区の概要

東西の仲町通りと南北の吹貫横丁がこの地区の主要な道路である. これらの道では, 飲食店やキャバクラ, 風俗店などがひしめき合っており, **17時以降歩行者専用**となり夜間歓楽街として大いに賑わう. 主要道路以外の裏路地にもスナックやバーが立ち並んでいる.

2-2-2. 歴史

上野の街は, 江戸時代に寛永寺の門前町として形成されたのが始まりである [3]. この地区は, 江戸時代に茶屋街として発展し, 明治から昭和初期にかけては, 待合, 料理屋, 置屋といった店の許可地となり, 「下谷花街」と呼ばれ芸者文化が栄えた. 戦後は1958年の風営法改正を機に, 風俗店やキャバレークラブなどの台頭によってビルの多くはテナントビルとして立体化し, 街並みは大きな変化を見せた.

一方, 不忍通りを挟んで北側の上野公園以北の地区は, 近代化を象徴する場所として公園整備などが行われ, 博物館や美術館など**高度な文化**が集積する街となった. 現在でもこの地区と仲町界隈は, 不忍通りを境に**空間的・社会的に分断**されている.

2-2-3. 特徴

広域的には周辺に様々な用途があることが特徴である. 歌舞伎町やすすきの, ニシタチといった多くの主要歓楽街がオフィスビルに囲まれているのに対し, 仲町界隈はオフィスビル・上野公園・大学・博物館・美術館・湯島天神・住宅など**多様な施設・用途に囲まれている**. 中でも住宅は近年増加傾向にあり, **ファミリー層向けのマンションが増加**している. 対象地区南には古くからの住宅も残っており, こういった場所での**高齢者の増加**も留意すべき点である.

また, 国籍も多様である. 隣接するアメ横では, 戦後から朝鮮人や台湾人, 中国人が流入しており, 現在でも上野には多くの在日韓国人が居住・販売している. 仲町界隈においても, 外国人パブが多くあることや, **外国人のビルオーナーが増加**しており, まちづくり意識の共有は簡単なことではない.

2-2-4. 店舗分布

敷地内には文京区と台東区の**境界**が存在し, また白梅商店会, 池之端仲町商店会, 上野二丁目仲通商店会の**三つの商店会**が共存している. 三商店会の意識の統一を図ることは, 今後のまちづくりを行う上で重要となる.

また図２はGoogle Mapを参照して対象敷地内の店舗を種類別にプロットしたものである. **夜の店がひしめき合って**おり, 特に路地裏を中心にスナックが多く分布していることが特徴的である. また, キャバクラや風俗店は主に広い道路に沿って分布しており, 客引きの発生によって治安の悪化が顕在化している. 路上客引きによるトラブル発生・街のイメージ低下は仲町界隈最大の問題一つである.

一方, 組紐店や福神漬店など何百年もの歴史がある**老舗店舗**が多く存在する. しかし, 風俗店などの台頭により, 老舗店の存在感が薄くなっているのも課題としてあげられる.

図2 店舗の分布(左上:バーパブ,右上:スナック,
左下:居酒屋,右下:キャバクラ・クラブ・風俗店)

スナック店舗は, 接待飲食店舗の一部であるが, キャバクラや風俗店とは異なり, 「店全体で会話を楽しむ」という特徴がある. これは閉鎖的な部屋により生まれるプラベート性やママを中心に客を繋がることで生まれる常連客のネットワークによるものである. 後述するが, 本書ではこのスナックを歓楽街の資産として捉え, スナックを応用した提案を行う.

2-3. Covid-19による影響・現在の対策

2-3-1. 感染状況

日付	夜の街関連の感染者数(人)	東京都の感染者数(人)	割合(%)
6/8-6/14	65	161	40.4
6/12-6/18	96	288	33.3
6/20-6/26	123	291	42.3

表1 2020年6月の感染者数

表１の通り, 東京都内の感染者数のうち「夜の街」関連の感染者数が高い水準を保っており, **歓楽街における感染者は他の経路に比べて多い**傾向がある. その理由として, 機能的にも構造的にも**三密空間が必須**となる店や, 支援を受けられず**営業を自粛・縮小できない**店が多いことが挙げられる。また, 感染経路不明には歓楽街関連は多く含まれるが, 店の特性上感染者が来店したことを口外しにくと考えられている.

2-3-2. 人出の減少

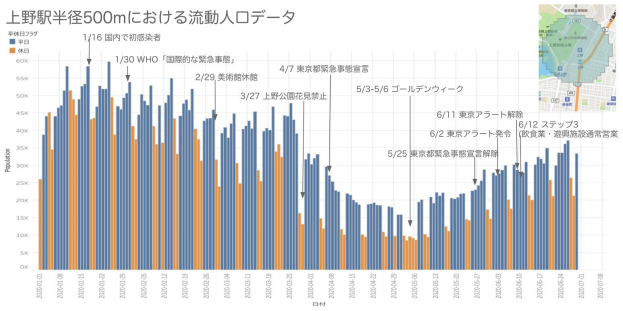

図3 上野周辺の流動人口の変化([4])

図３は2020年1月1日から6月29日までの上野駅半径500m(右上の緑メッシュの範囲)における人口流動データである. 対象敷地はこのデータの範囲に含まれていないが, 近接しているため高い相関があると考えられる. 流動人口データを左右する原因のうち, 上野地域特有のものとして, 文化施設や上野公園などの**大きな施設の稼働状況に左右される**ことが挙げられる. 緊急事態宣言の解除後, 人出は徐々に戻りつつあるが, 必要最低限の外出(出勤や買い物など)に留める人が多く, 歓楽街には立ち寄らない可能性が高い. 特に**インバウンド客が多い**ことも上野地域の特徴であるが, インバウンド客の来訪はしばらくは見込むことは厳しい.

2-3-3. 営業形態の変化

上述の人出の減少・それによる利益の減少・感染リスクを下げる必要を受けて休業, 営業時間短縮に加えて, 完全予約制の採用, オンラインサービスの活用などの**営業形態の変容**が起きている. 対象敷地内でもこれらの変化は多数見られる.

飲食業はテイクアウトやデリバリー, テラス席の活用などの感染対策を行いやすいが, **接客飲食業は対応が限られる**. 他地域では接客に特化したオンラインスナックやオンラインキャバクラなどのオンラインサービスを実施している店も存在する. 老舗店は店主がデジタルツールに弱い, 新しいことへの抵抗があるなどで**対応が遅れる**傾向にある. いずれの場合も**通常営業時よりは利益が減ってしまう**ことは避けられない.

2-3-4. 公的支援

名前	持続化給付金	感染拡大防止協力金	商店街新型コロナウイルス感染症緊急対策支援	文京区中小事業者緊急家賃助成事業
支援主体	国	東京都	台東区	文京区
金額	最大200万円	50万円	最大20万円	家賃の8割(最大20万円)
対象	性風俗関連特殊営業、接客業務受託営業は対象外	休止要請が出ている業種の中小企業	商店街と商店街連合会の店	東京都と同じ
条件	-	5/7-25は休業(飲食業は短縮営業)	感染対策(消毒液の購入など)に使う	-

表2 公的金銭支援

公的支援として表2のような金銭面での支援が行われているが, **水商売への公的理解の低さが露呈し, 以下のような歓楽街固有の問題が発生している**.

- 当初水商売は公的支援の対象外であった(団体による働きかけにより対象内になった).
- 外国人労働者のいる海外系のパブなど, 税金を払っていない, 違法労働していることにより支援を申請できない店も存在する.
- 従業員の給料や地代, 維持費が高く, 支援金では払いきれない.

金銭面以外でも支援が行われている. 文京区ではテイクアウトが可能な飲食店をまとめた地図の作成, 白梅商店街では持ち帰りを促進するイベントの実施が行われている. 現段階では**広報活動**が多いが, **規制緩和**など工夫の余地が残されている. 大きな自治体規模では金銭支援に留まってしまうことが多いが, 商店街など小規模単位では**地域の特色を活かした支援**を行うことができる.

2-3-5. ガイドライン

業種・地域・店の単位で感染リスク削減のためのガイドライン作成が進んでいる. 基本的には業種と地域のガイドラインを受けて各店がガイドラインを作成しているが, 対象敷地内では地域としてのガイドラインがまだ作成されておらず地域で統一した対策をすることが難しくなっている. この理由として, 外国人のビルオーナー・テナントオーナーが多い, オーナーの新陳代謝が激しい, エリア内に文京区と台東区の区境が

ありで複数の商店街が存在することによる**地域としての連帯意識が低い**ことが挙げられる.

2-4. postコロナで発生する課題

現在芽生えており, コロナの発生によって急速に進展し, postコロナに顕在化する課題は「**街の空洞化**」である. 2-3で述べたように客の減少と公的支援の不足により閉店が増えており, 急激な回復は見込めない. 歓楽街は集積の経済による効果が大きく, テナントの減少は対策を取らなければ加速する恐れがある.

また, 街の空洞化は仲町固有の雰囲気の喪失にも繋がる. 他の歓楽街や商店街と比較して, 対象地区は江戸時代からの門前町や茶屋街を起源にもつと思われる老舗やスナック店舗の混在により固有の魅力を保持している. しかし老舗と現代ニーズとの不一致,チェーン店舗の進展, 風俗店の乱立等により固有の雰囲気は喪失の危機にあり, コロナによる老舗店の突然の閉店や空きテナントの増加により, 危機は拡大する. 仲町固有の雰囲気を強く認識した上で, 歴史を引き継ぐようなまちの展開が望まれる.

3. 歓楽街の将来

それではコロナ収束後に歓楽街の役割がどのように変化するかをライフスタイルの変化及び人々の欲求の変化を基に論じる. 変化点は大きく2点にまとめられる.

3-1. 時間の自由化

外出自粛の要請によりリモートワークが急速に浸透し, 出勤通学の時間削減, フレックスタイムの浸透が広まった. これによって人々の可処分時間が増加しただけでなく, 働く時間をより自由に選べるようになった. 今後, 昼に働き夜に遊ぶという固定的なスタイルに囚われず, 朝にカフェで友達と談笑してから午後働く, 好きな時間に好きな場所で働く, といったより多様なスタイルが発生するだろう. また増えた時間は家族での対話や地域の交流など, 今まで重要とされながらも優先度の低かったことに使われるように変化するだろう. これらの店舗利用時間の多様化や, 家族や地域のような身近な場への回帰に対応していく必要がある.

3-2. オンラインの発達と受容

ネットワーク技術およびオンラインサービスの発展は, リモートワークだけでなく, オンライン飲みや動画配信の充実をもたらしている. また自粛期間にオンラインの利用を半ば強制されたことで, 抵抗感が小さくなり, オンラインサービスを積極的に受け入れている. 歓楽街がオンラインサービスを利用していくことは不可欠であり,そこには新しい展開の可能性が秘めている.

一方でオフラインが提供できるものは何だろうか. 対面の会話では, 肉体的な触れ合いや即時的なフィードバック, 言語情報だけではない「おもてなし」が存在する. 特に接待文化は歓楽街が得意としてきたものであり, 特定の人にあって対話をしおもてなしを受けるために街へ行く, という欲求は増加すると思われる. また環境をコントロールでき, 再現性も高いネット上とは異なり, オフライン, 特に多種多様な店・人が集まる歓楽街では予期せぬことが多く起きる. さらにレンズを通した古い情報ではなく, 生のエンターテイメントの価値は相対的に上昇する. この「偶発性・ライブ性」を求めて歓楽街へ足を運ぶ人は増えるだろう.

3-3. postコロナの歓楽街の役割

上記の変化を踏まえ, 歓楽街は「夜だけの街」ではなく**時間的な多様性**を持ち, 地域の人々や高齢者など**多様な人**が集まる場所としての役割を持つ必要がある. また既存の歓楽街の接待機能・偶発性・ライブ性を強化すれば, 特定の人に会っておもてなしを受ける・突然のエンターテイメントを楽しむ場となるだろう.

4. withコロナにおける提言

2-3でも示したように, 感染症対策として, 公的支援やガイドラインの設定などソフト面での施策が行われているが, 感染症対策及び店舗の経営持続性の双方で限界を見られる. ガイドラインを遵守しても, 対面伴う接客の場合完全な感染予防が不可能であることや, 客数の大幅減少が避けられないことから, **空間的な対策が必要**である. そこでwithコロナにおいては**オープンエア空間に注目して即時的に実行可能な提言**を行う.

4-1. 規制緩和の動き

オープンエア空間活用の動きは, 国による規制緩和でも後押しされている. 国土交通省は今年6月5日, 三密回避の対応としての**飲食店等の路上利用について, 占用許可基準を緩和**した. 占用料は免除となり, 路上の利用がしやすくなっている[5].

4-2. 周辺のオープンエア資源

仲町界隈には**豊富なオープンエア資源**が存在する. 図４は対象敷地内オープンエア空間を図示したものである. **仲町通り**と**吹貫横丁**では, 幅が広いことに加え夜間に車の通行を規制するため, 飲食店などが街路に出て営業するスペースが十分に確保できる. また, Google Earthを用いた調査により, **ビルの屋上**空間も活用可能なものが複数あることが分かった.

さらに, 不忍通りを挟んで敷地の北側に巨大なオープンスペースである**不忍池・上野公園**があることも, オープンエア資源の一つと言える.

図4 対象敷地内の屋外空間の分布

4-3. 提案

以上の資源を生かし, 仲町の多様な飲食店が営業を持続させていくための提案を行う. withコロナにおいては**postコロナへの役割転化**や**既存の地区問題解決**を視野に入れつつ, 感染症対策を中心に簡易的な対応を行う.

4-3-1. 街路への共用テラス席設置

街路にテラス席を設置し, **飲食店のメニューをテラス席で提供**する. 図５はテラス席設置前後の街路空間の変化を示している. テラス席は中央に配置することで, 沿道の賑わいや店舗へのアクセス性を維持する. また客やデリバリーによる監視の目や, 街路で楽しむ人の存在により, 客引き**の削減**も狙う.

またUber Eatsを模倣し, webアプリにより飲食店のフード・ドリンクを注文でき, 仲町界隈専用のアルバイトにより, テラス席まで飲食物がデリバリーされる形式となる. (下北沢においてコロナを受けて始まった, シモキタデリバリー参照[6]) 席数は200席程度で密度を小さくし, 営業時間も車両通行禁止となる17時から, 要請よりも早めの21時までに留める.

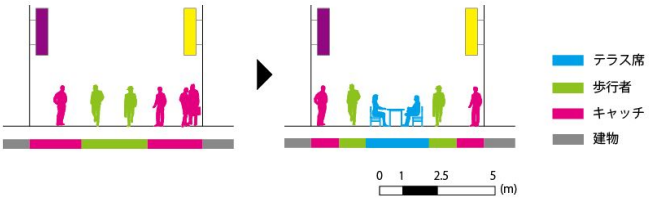

図5 テラス席配置前後の街路空間の断面図

4-3-2. 屋上の活用

ビルの屋上は, **屋外空間でありながら, 周辺からの視線が無いという**点で**プライベート性**を備えている. この空間構成は, 常連客とママとの閉鎖的な空間を有するスナックとの相性が良いため, スナックのテナントによる利用を促す.

形状的に利用可能な屋上は38箇所存在するが, 整備工事の関係上実際に利用可能な屋上は8-10箇所に限られる. そのため一部屋上を実験的に整備し評価を得て, postコロナで工事をすすめる屋上の特徴を検討する. またスナックは数百店舗が存在する. そのため設備を固定した上で, **複数の店舗が日替わりで交代利用**することとする.

4-3-3. 周辺の大規模オープンスペースの活用

仲町界隈の店舗による**上野公園での屋台やキッチンカーの出張営業**を行う. また写真２のような「**水上スナック**」を複数個整備する. **池に浮かぶボート上の空間は周辺と分離**されており, スナックの持つプライベート性が維持されている. 事前予約での利用を基本とし, 夜間帯の営業となる. これは後述する「そとちゃや」の上野公園への拡大を視野に入れ, 仲町界隈の店舗が公園内でプロモーションを行うことで, 従来より問題だった**上野公園との分断を解消**する狙いもある.

写真1 屋上利用のイメージ[7]

写真2 水上スナックのイメージ[8]

4-3-4. 店内の改装

以上のような屋外利用だけで店の利益を十分に確保することはできず, **三密を避ける工夫を行いながら屋内店舗でも営業は継続していく必要**がある. その際, 店内の換気を行うことが重要だが, スナック店などの場合, 窓を開けることは風営法で規制されている. またリース営業が多く, 店舗単位で既存の設備改変を行うことは難しい.

そのため条例によって**風営法の一部緩和**を行い, **窓の部分的な設置**や**換気設備の増加**を可能にする. さらにビルオーナーが主体となって, ハード面での**換気対策実施**を契約しているテナントオーナーに指示する.

5. postコロナにおける提言

5-1. 街路

図6 「そとちゃや」イメージパース

withコロナではオープンエア活用の１つとして街路にテラス席を設けたが, postコロナではこのサービスを拡大し, 「**そとちゃや**」として街路のフードコート化を行なう. 仲町通りの一部で実験的に行い,徐々に仲町通り全体と吹貫横丁, さらには上野公園までの拡大を目指す. 席は全体で400-500席程度存在し, 四人掛けのテーブルに加え, ドリンクをその場で提供するママの存在する円形席, 老舗店の特色が現れた特別席など多様な席を設置する.

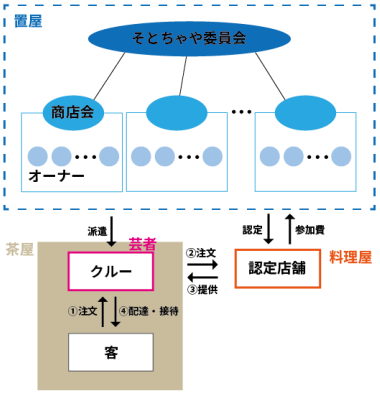

図7 花街を模倣した「そとちゃや」のシステム

図７はテラス席の管理体制を示している. 地区全体のテラス席のマネジメントを行う委員会を設け, 各商店会やビルオーナーが所属する. 委員会よりクルーを派遣し, 客への接待や食事やお酒のデリバリーを行う. また, 委員会からの認定を受けた飲食店(主に居酒屋やバー)のみテラス席へのデリバリーサービスを可能とする. 認定には風営法に従った適切な運営や商店会への加入が必須となり, **悪質な**客引き**や悪質店舗を淘汰する**.また, 現在は老舗店が中心となっている商店会を活性化させると共に, **委員会はまちの意識を共有する場となる**.

このサービスの重要な点は, **クルーが客へのおもてなしを行う**ことである. 客は, 認定店舗より派遣される店員に加えて, 周辺大学生やフリーの客引きを行っていた若者, 芸人をアルバイト採用し, 単にフード・ドリンクを運ぶだけでなく, 客とのコミュニケーションやパフォーマンスを行い, 運送費に加えてチップを貰える形式にする.

さらにこのサービスは**仲町界隈の花街としての文脈を受け継ぎ, 現代版に読み替えたシステムである**. 花街は, 茶屋に訪れた客が, 料理屋から提供された食事や酒をつまみ, 置屋から派遣された芸者による接待を楽しむ場であった. そとちゃやでは, テラス席(茶屋)に訪れた客が, 認定店舗(料理屋)から提供さ

れた食事や酒をつまみ, 委員会(置屋)から派遣されたクルー(芸者)との接待を楽しむ.

5-2. ソシアルビル

postコロナでは外部空間に加え, 建築物に対する提言も行う. 歓楽街で多く見られるソシアルビルは間口が狭く, 建築内部へのアクセスがしにくい, 廊下が狭く災害時の避難がしにくい(新宿では2001年に雑居ビルにて火災が発生し44名が死亡している[10]), 上層部に空きテナントが存在するといった問題を現在抱えている。このような現状と, postコロナにおけるライフスタイルや歓楽街の役割変化を考慮して, **リノベーションとスナック多様化**という物理的・機能的両側面からの提言を行う.

仲町通りに実際に存在するソシアルビルを例にとって, ２つの方向性を提示する. 下図がそのビルの断面図とパースである. 二つの方向性とは**吹き抜け型**と**屋上開放型**である. 減築方法に合わせ, 内部の多様なスナック機能の配置も変化させる. 内部の店は, ①近辺の東京大学や東京藝術大学の学生がスナックのママになる(運営する)大学生スナック, ②高齢者の居場所としての高齢者スナック, ③老舗などが引き継ぐ文化や歴史を踏まえ, 工芸品の展示やワークショップが開催される文芸スナック(cafe), のように**新しい客層の居場所となるスナックを導入する**. リース店舗によって新規の店が入りやすい事により, これらの独自性の高いスナックの進出が可能になる. また高層部では, 従来のスナックに屋上を加えることで, **開放性の高まった開放型スナック(bar)**を考えている.

なお, 全てのソシアルビルにおいて減築が推奨されるというわけでない。屋上を持っている, または接する街路が仲町通りや吹貫横丁といった人通りの多いものであるソシアルビルが優先的に減築対象となる.

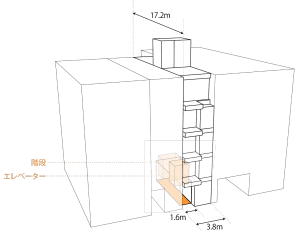

図8 現状のパース

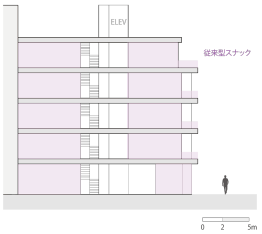

図9 現状の断面図

吹き抜け型の場合, 街路から建物内部へのアクセシビリティが高まる. 対象としているソシアルビルは間口が3.8mであり一階部の奥の部屋へ到達するには1m未満の廊下を通る必要がある. **一階と二階部を吹き抜け**にすることで, 建物奥, さらには上層階へとつながる階段やエレベーターへのアクセシビリティを高める. 創出された吹き抜け部は, パフォーマーのステージとすることで, 街路の延長部として捉える.

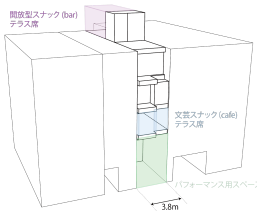

図10 吹き抜け型のパース

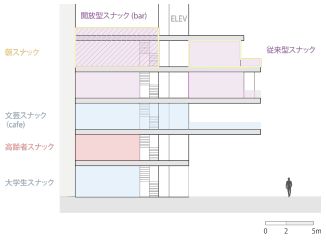

図11 吹き抜け型の断面図

屋上開放型の場合, 空きテナントが多く存在しがちな上層部の活用がすすむ. **屋上を拡充し, 積極的に使用**していくことで, 上層部の価値を高める. また, **上層部を街路側に開く**ことによって, 上層部と街路との視線の交差がはかられるという点で, 街路と建物の連続性が増すともいえる.

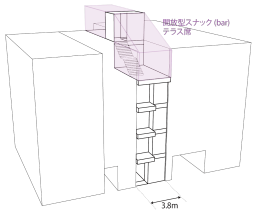

図12 屋上開放型のパース

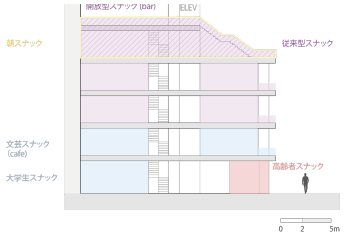

図13 屋上開放型の断面図

図14 大学生スナックのイメージ

6. まとめ

歓楽街の一般的な議論を踏まえた上で, 仲町界隈に応用し, withコロナ及びpostコロナの提言を行った. 仲町はいま輝くポテンシャルを秘めた, **蕾**の状態にある. **花**街を踏襲したおもてなしシステムを現代的に具現化し, 既存の閉じられたソシアルビルを**街路に開く**よう改造し, 地元の人にも**開かれた**様々な居場所が生まれる. 下図は各時間にどのような店舗が利用されているかをコロナ前後で比較したダイアグラムである. 仕事帰りのサラリーマンによって夜・深夜に利用が集中している従来の姿から脱却し,より多様な時間に展開店舗, またそれに伴って惹きつけられる多様な人, そんな光景を我々は描いている. それは蕾から新たな姿に生まれ変わった「花開く仲町」だ.

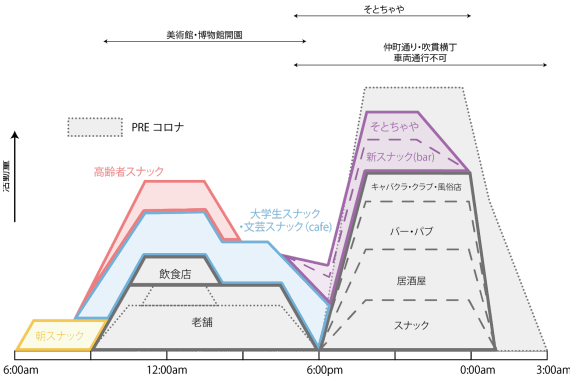

図15 PRE・POSTコロナの活動量時間変化(平日)

7. 参考文献

[1]武岡暢: 生き延びる都市 新宿歌舞伎町の社会学, 新曜社, 2017.
[2]神崎宣武:盛り場のフォークロア, 河出書房新社, 1987.
[3]五十嵐泰正: 上野新論, せりか書房, 2019.
[4]株式会社agoop：新型コロナウイルス拡散における人流変化の解析, 最終閲覧日2020.6.29
https://corporate-web.agoop.net/pdf/covid-19/agoop_analysis_coronavirus.pdf
[5]国土交通省　新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて
https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001324.html最終閲覧日2020.7.8
[6]シモキタデリバリー
https://shimodeli.com/最終閲覧日2020.7.8
[7]女子旅press:京都にホテル最上階ルーフトップバー「K36」夜景＆八坂の塔を一望,
https://travel.mdpr.jp/travel/detail/1790956
[8]boats.com:Cruisin' Tiki Review, 最終閲覧日 2020.7.8,
https://www.boats.com/reviews/cruisin-tiki-review/
[9]吉見俊哉:都市のドラマトゥルギー, 河出文庫, 2008.